

底引き網漁船「第十五金廣丸」の乗組員として働く村古さん。「漁師の家に生まれ、父親の背中を見て育つ中、物心がつくころには漁師になると決まっていた」と振り返ります。高校を卒業すると、地元の漁協からの紹介で、県が県漁連などと運営する「ふくい水産力レジン」に入校。仕事をしながら座学を中心としたプログラムで漁業の基礎を学びました。「10月から5月末までの底引き網の漁期には、一日の大半を船で過ごします。自然が相手なので先の予定

若狭の海で一番を目指す



勤務先 第十五金廣丸
村古 崇志 さん
(19 歳・下竹原)

が立てづらいなど大変なことも多い」と語る一方で、「努力が目に見えて水揚げに反映され、捕れた魚の分だけ苦労が報われる」と笑顔をみせます。船の上では一瞬の判断ミスが命取りになることも。そんな中、「段取りよく作業を行うなど、いかに父である親方をサポートできるかが今後の課題」と意気込む村古さん。「人より多くの漁を行うことにこだわり、漁に必要な経験を積み勘を養うことで、若狭で一番の底引き網漁船を目指します」と力強く目標を話してくれました。

小学2年のとき、市内の卓球クラブに所属する姉の影響で同クラブに入会して以来、競技に打ち込む河原くん。球の回転や技の多さなど、競技の奥深さに魅了され、現在は15人の部員が所属する小浜中学校男子卓球部でキャプテンを務めています。10月に行われた地区大会では、団体の部で3位。個人の部では、河原くんがテンポの速い攻撃を武器に優勝を果たし、県大会に進みました。「試合や練習の中で課題が見つかったときが上達できるチャンスと捉え、チー

課題の発見が上達のチャンス



男子卓球部 キャプテン
河原 稜真 くん
(小浜中学校2年生)

ム全体で課題に向き合い、練習に取り組んできた成果」と胸を張ります。「技術面・精神面とも頼られるキャプテンになりたい」と意気込む河原くん。顧問の岩本先生も「率先して準備などを行う姿や高い技術力は部員の模範になっている」と評します。同部の目標は、団体の部で地区大会に優勝し、県大会に出場すること。個人の部では県ベスト4を目指しているという河原くんは、「目標達成への壁は高いが、みんなで力を合わせて乗り越えたい」と意欲をみせました。

多くの人に手話に親しんでほしい

手話技術の向上と聴覚障がい者との交流を目的に活動する手話サークル「八百姫」には、50代から70代の10人が所属。月2回の勉強会や、近隣市町での出前講座などを行っています。「みんなで集まっておしゃべりするのが楽しみ」という、会員の濱坂さん（写真右）。両耳が全く聞こえず、手話のほか、口や唇の形を読み取ってコミュニケーションを取ります。活動の魅力について、「さまざまな人に出会い、社会に参加する場があるのがうれしい」と話します。

同サークルは、毎年12月に開かれる「障害者問題を共に考えよう小浜フォーラム」に手話通訳として参加。代表の松下さん（同左）は、「2年前に初めて参加したときは、緊張で手が震えたが、周りの人たちのフォローに、人の温かさを感じることができてうれしかった」と振り返ります。松下さんは、サークルの今後の目標について、「市内の学校で出前講座の機会を設けるなどして、さらに多くの人に手話に親しんでもらいたいですね」と話してくれました。



手話サークル 八百姫
松下 笑佳 さん
(52 歳・府中)
濱坂 千鶴子 さん
(79 歳・大湊)

おいしい料理で地域交流を

若狭東高校の調理室で地域の食材を使った料理や菓子を開発し、イベントなどで来場者に振る舞っている生活研究部。生活創造科の生徒を中心に1〜3年生の女子19人が所属しています。部長を務める泉さんは、中学生のころから菓子作りが好きで、高校入学と同時に同部に入部。菓子作りの魅力を「お菓子が出来上がったときの達成感はもちろん、何を作るか考え、作業する過程そのものが楽しい」と語ります。

同部では現在、毎年12月に地域の高齢者らを学校に招き、料理でもてなす「クリスマス交流会」に向けたメニューを開発中です。「部員みんなでアイデアを出し合い、熊川葛などを使った料理の試作を重ねているところです」という泉さんは、「私たち3年生にとって、これが最後の活動発表の場。お客さんにおいしく、楽しく過ごしてもらおうことはもちろん、私たち自身も楽しんで、みんなが笑顔になれる会にしたいです」と意気込みを話してくれました。



生活研究部 部長
泉 瑠奈 さん
(若狭東高校3年生)

御食国 若狭おばまの 食材めぐり

■問い合わせ 農林水産課 ☎ 64・6024

第3回

若狭ふぐ

冬が旬の魚といえば、何と言ってもフグ。中でもトラフグは、「フグの王様」と呼ばれています。

嶺南地域は、日本海側で唯一、海面でトラフグの養殖を行っている地域で、日本最北端の養殖地でもあります。

市内では、主に阿納区で養殖が行われており、一年を通しておいしく食べることができます。

若狭湾は、雪解け水の影響で、他のフグの養殖地に比べて水温が低い期間が長く、3月～5月ごろまで続きます。そのため、身が締まって歯ごたえがしっかりした肉質で、うまみを十分に蓄えたフグが育ちます。

若狭湾で養殖されたトラフグは、登録商標「若狭ふぐ」として、京阪神を中心に好評を博しています。

また、市内で若狭ふぐ料理を提供する宿泊施設は、「若狭ふぐの宿」として、県の認証を受けています。



【生産者の思い】

トラフグは繊細な性格で、ストレスがたまりやすい魚のため、自然に近い環境で工夫を凝らし、品質向上に努めています。
いよいよ冬も間近。フグが最もおいしいこの季節に、ぜひ、民宿や取り寄せで、若狭ふぐの鍋や刺身を楽しんでください。

健康

生活のとびら

救急総合診療科って？

どんなところ？

救急総合診療科は、救命救急センターとして重症・緊急の人を受け入れる窓口であると同時に、時間外（平日午後や夜間、休日）の診療を行う部署でもあります。24時間365日、7人の救急医と12人の看護師が2交代制で診療にあたっています。

どんな病気を診てくれるの？

けがや腹痛、中毒など内容を問わず医療が必要な人すべてを診察します。「専門は内科のため外傷患者さんは診られません」や、「耳や眼は専門外なので耳鼻科や眼科を受診してください」ということは決してありません。しかし、疾患の特殊性から診断できないことや、発症直後に受診しても、あまりに病気の初期段階のために診断がつかないことがあります。そのような場合は、初期対応のあと、必要に応じて翌日などに各専門科を受診してもらっています。



救急総合診療科の職員

杉田玄白記念 公立小浜病院

■問い合わせ ☎ 52・0990

『お薬手帳』を忘れず持参

熱がある、全身がだるいなどの漠然とした症状の場合、想定する病気がたくさん考えられます。そこから原因となる疾患を絞り込むためには、診察や詳しい問診が必要で、そのとき服用している薬の情報を必ず尋ねています。処方されている薬の情報が、診断や治療に欠かせないことがあり、情報が得られなければ診療に遅れが生じる場合もあります。普段、他院にかかっている人は、救急外来を受診する際は忘れずに『お薬手帳』を持参してください。

遠慮せずに受診してください

重篤な人を受け入れる救命救急センターであるとともに、皆さんに開かれた救急外来でもあります。「こんなことで受診していいの？」と遠慮せず、必要なときには気軽に受診してください。

知ってほしい、
役に立つ事業をキリトリ！

市役所 お仕事ファイル

二十歳の節目を祝う「成人式」と 企画・運営する「実行委員会」

■問い合わせ 生涯学習スポーツ課 ☎ 64・6033

昨年度の成人式の様子



誓いの言葉を述べる
新成人代表



スーツや晴れ着で、
式に参加する新成人



中学3年生当時の恩師が登場し、思い出話で盛り上がったアトラクション

責任ある「大人」としての
門出を祝う

新成人が企画・運営
「成人式実行委員会」

成人式は、その年度に満20歳を迎える若者たちを激励し祝福する行事で、全国の自治体で行われています。

現在私たちがよく知る形式の成人式は、昭和21年に埼玉県で開かれた「青年祭」が始まりと言われています。

この企画が全国に広がり、昭和23年に公布された祝日法で「成人の日」が制定されたことで、全国的に1月に行われるようになりました。

本市の成人式は、市長や親などが見守る中、新成人が大人としての自覚と責任を誓う「式典」と、自分たちで企画・運営する「アトラクション」の2部で構成され、毎年多くの新成人が参加します。

「成人式実行委員会」は、その年の新成人の有志が集まり結成する組織で、アトラクションの企画・運営を担います。

実行委員会から、新成人のみなさんへ



会議で積極的に意見を交わす
実行委員たち

成人式実行委員会では、有志5人が、人生でたった一度しかない成人式をみなさんの思い出に残るものにできるよう活動しています。

当日は、全員が参加して楽しめる企画などを考えています。

同級生や恩師と再会し、ともに大人としての門出を祝う成人式に、みなさんの参加をお待ちしています！

令和2年 成人式

【と き】 令和2年1月12日①
13時30分～

【ところ】 文化会館

【内容】 式典
アトラクション（ビンゴゲーム・恩師紹介など）
記念写真撮影